アオサギ

Ardea cinerea

サギ科・夏鳥（一部越冬）

アオサギ

名前の由来

背が青灰色のサギであることに由来する。古くは「みとさぎ」とも呼ばれていた。漢字名：蒼鷺

特定種

該当なし

形態的特徴

全長（くちばしの先から尾の先まで）93cm。背が青灰色の大きなサギ。くちばしが長く首も長い。飛ぶときには首を縮める。

声：繁殖期には「クァー」あるいは「ゴァー」といった声でよく鳴く。ヒナも「ジャッ、ジャッ」とやかましく鳴き立てる。

繁殖期以外でも飛び立つときや飛んでいるときに「クァー、クァー」と大声で鳴くことがある。

アオサギの幼鳥

首を伸ばしたアオサギ

アオサギの足跡

生息環境・分布

川、池沼、水田、干潟などに生息する。十勝には３月中旬に渡来する夏鳥。

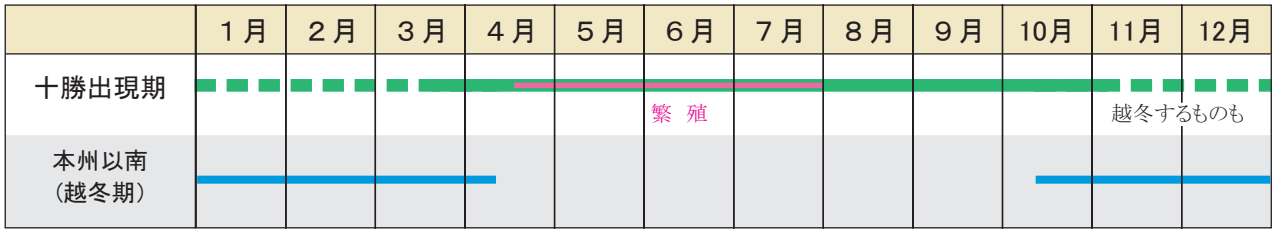
分布：ユーラシアとアフリカ大陸の温帯から熱帯で広く繁殖する。北のものは冬になると氷の張らない水辺を求め南方へ渡る。

日本には北海道、本州、四国、対馬で繁殖し、北方のものは冬期は暖地に移動する。九州以南では冬鳥。

北海道では夏鳥。3月中旬に渡来する。河川沿いや湖沼に生息し、河川や湖沼近くの森林にコロニー（集団営巣地）を作り繁殖する。山間部のダム湖にも飛来することがあり、最近新たなコロニーもできている。

十勝地方では、夏鳥だが十勝川中流域などで少数が越冬。幕別町猿別や浦幌町稲穂、鹿追町美曼、帯広水光園などが繁殖コロニーとして知られている。

生活サイクル



食性・他生物との関わり

主に魚を捕食する。カエル、昆虫類、甲殻類、ネズミも食べる。
魚を捕らえるときには、水の中をゆっくり歩いたりじっと立ち止まって待ち伏せたりしながら捕らえる。餌を見つけると瞬時に首を伸ばしてくちばしではさんだりさしたりして捕る。捕らえた魚はくわえなおして頭から飲み込む。岸に打ち付けて殺したり、飲み込む前に水で洗うことがあるという。
捕食者は猛禽類など。

繁殖生態

主に丘陵地のよく茂った林などで、高木の樹上や梢に集団繁殖する。繁殖期は4月から7月。一夫一妻で繁殖する。
つがいの形成の際に、オスは古巣の上でメスに対してくちばしを鳴らしたり、背伸びをしたり、下を向いてうずくまるなど様々な求愛行動を行う。
巣材（枯れ枝など）集めは主にオスが行い、メスはオスから受け取った巣材で大きな皿形の巣を作る。
３～５個の卵を産み、２日おき、または３～４日おきに１卵ずつ産卵するという。
抱卵日数は25～28日くらい、育雛日数は25～30日くらい。
つがいのオスメスが交代で卵を抱き、ヒナへの給餌もオスメス共同で行う。給餌は朝方と夕方に多いという。

アオサギの集団営巣地（コロニー）

興味深い話

■丘陵地のよく茂った林などに集団繁殖するが、つがいは巣の周りのごく狭い範囲をなわばりとして防衛する。コロニーに早く渡来し、早くつがいになったものほど木の上部に巣をつくり、つがいになるのが遅くなるほど木の中層や下層に巣をつくる。
■つがいの形成の際に、オスは古巣の上でメスに対してくちばしを鳴らしたり、背伸びをしたり、下を向いてうずくまるなど様々な求愛ディスプレイ（メスや他の個体に対して誇示をおこなう特徴的な行動）を行う。
■繁殖期にはコロニーを中心に半径５～10ｋｍぐらいの範囲を採餌行動圏とし、繁殖が進行するにつれてその範囲は拡大する傾向がある。非繁殖期は単独あるいは小規模なねぐらをつくって眠る。

配慮事項

採餌環境としては魚の生息する水域が必要。繁殖コロニーとなる樹林は限られており、コロニーのある樹林は大切である。

参考文献

「山渓カラー名鑑 日本の野鳥」高野伸二 編、浜口哲一・森岡照明・叶内拓哉・蒲谷鶴彦 著、山と渓谷社 1985（1995 ２版21刷）
「原色日本野鳥生態図鑑(水鳥編)」中村雅彦・中村登流、保育社 1995
「北海道鳥類目録改訂２版」藤巻裕蔵、帯広畜産大学野生動物管理学研究室 2000